

資料1

2016年10月18日

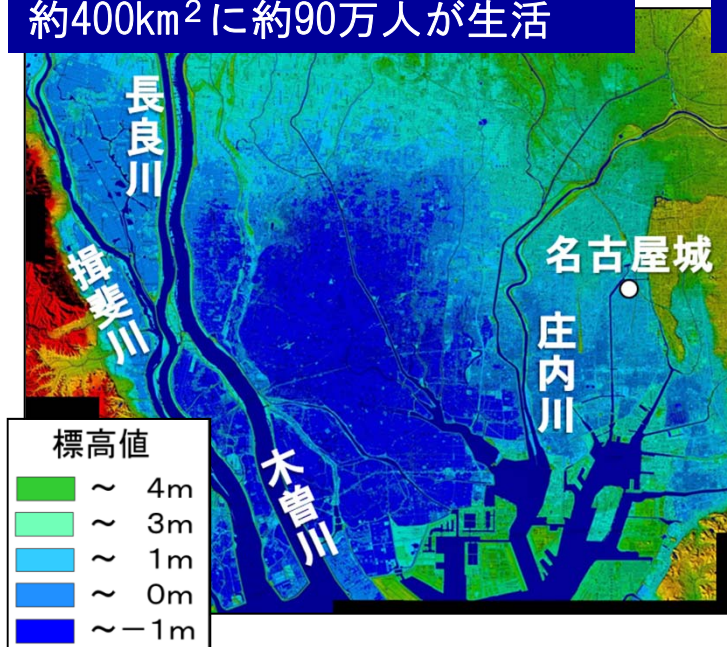
# 木曽三川下流部 広域避難実現プロジェクト 設立について

# 木曾三川下流部高潮・洪水災害広域避難検討会について

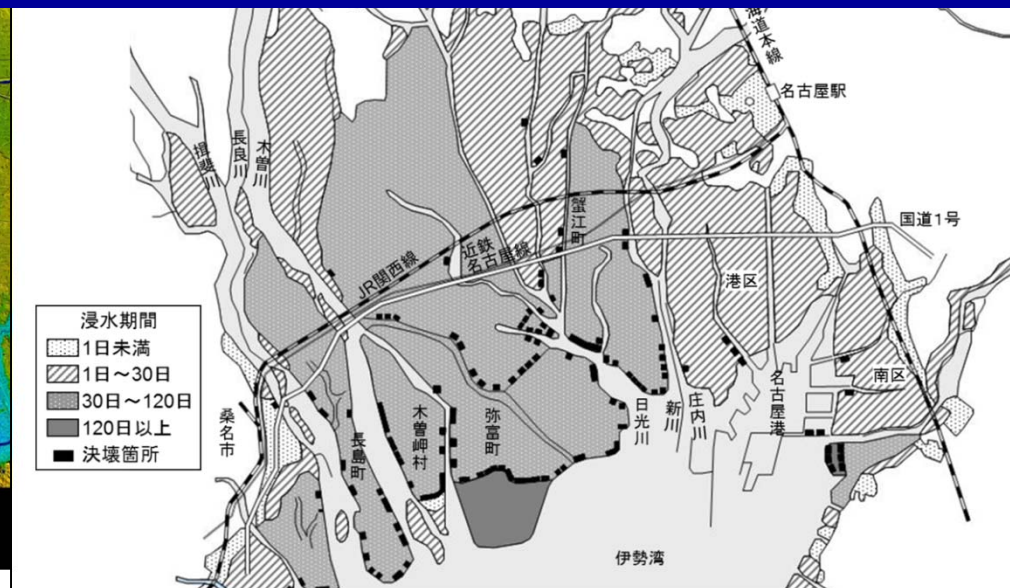
## 【取り組みの背景】

■伊勢湾台風以降、これまでに災害対策のインフラ整備を進めてきているが、木曾三川下流部には、我が国最大の海拔ゼロメートル地帯が広がり、巨大台風襲来時には、大規模な高潮・洪水被害が発生する可能性が否定できない状況にある。

朔望平均満潮位 (TP+1.2m) 以下  
約400km<sup>2</sup>に約90万人が生活



伊勢湾台風襲来時には120日以上にも及ぶ浸水  
(垂直避難では救出に相当な時間を要する可能性)



■巨大台風による高潮・洪水災害から“犠牲者ゼロ”を実現するためには・・・

- ①市町村の枠を越えた浸水想定区域外への適切な広域避難誘導とそれを円滑に実施するための計画が必要。
- ②地域社会(行政・住民双方)における社会的気運を醸成し、問題意識を共有しながら広域避難等に関する課題を解決していくことが重要。

# 木曾三川下流部高潮・洪水災害広域避難検討会について

## 【これまでの取り組み】

- 高潮や洪水により大規模かつ広域な浸水被害が発生した場合でも犠牲者ゼロとなることを目指して、避難誘導の検討や水災害講演会などの意識啓発を、平成21年より継続的に実施。
- 避難誘導の検討については、各市町毎ではなく沿川全体として行う必要があるため、沿川5市町を網羅した広域避難シミュレーションを構築し、それを活用しながら実施。

## 広域避難シミュレーションを用いた検討の展開



# 木曾三川下流部高潮・洪水災害広域避難検討会について

## 【広域避難検討会の参画機関等及び開催状況】

■平成25年1月に、群馬大学の片田敏孝教授をアドバイザーに迎え、沿川5市町の首長と「木曾三川下流部 高潮・洪水災害広域避難検討会」を設立。

### 参画機関等

参加メンバー：桑名市、木曾岬町、弥富市、海津市、愛西市、中部地方整備局河川部、木曾川下流河川事務所

アドバイザー：群馬大学広域首都圏防災研究センター長 片田敏孝教授

オブザーバー：津島市、蟹江町、飛島村、岐阜県西濃県事務所、愛知県尾張県民事務所、三重県桑名地域防災総合事務所、三重県桑名警察署、三井不動産商業マネジメント(株)

### 開催状況

H25. 1.22	第1回検討会	……検討会キックオフ(リスク、広域避難の課題の認識共有)
H25.11.15	第2回検討会	……広域避難シミュレーションを活用した避難課題の把握、及び対応策の検討
H26. 1.30	第3回検討会	
H26. 8. 7	第4回検討会	
<b>H26. 9.23</b>	<b>防災サミット</b>	
H26.11.27	第5回検討会	……シミュレーションによる検討結果をふまえた「木曾三川下流部高潮・洪水災害広域避難計画策定に向けたアクションプラン」の検討
H27. 1.19	第6回検討会	
H27. 5.21	第7回検討会	
H27. 8. 5	第8回検討会	
<b>H27.10.13</b>	<b>第9回検討会</b>	
H28. 3. 2	第10回検討会	……アクションプランに基づく取り組みおよび方針の確認

# 広域避難計画策定に向けたアクションプラン

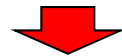
## 【アクションプランの策定】

- 平成27年10月に、犠牲者ゼロ・シナリオを実現するために必要となる方策等を、沿川5市町の首長とともに「アクションプラン」として取りまとめた。
- アクションプランは、大規模水害による犠牲者ゼロの実現において、最も理想的と考えられる「浸水区域内に居住する全ての人を浸水の危険性がない安全な地域へ避難」させることを目標とした「木曽三川下流部高潮・洪水災害広域避難計画」を策定するために、平時より管内の自治体及び木曽川下流河川事務所等が実施・解決すべき課題等についてとりまとめたもの。

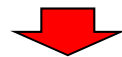


## アクションプランの構成

シミュレーションや検討会等で明らかとなった重要なポイント



広域避難実現のために解決すべき課題



アクションプラン

実施内容

実施主体・関係機関

留意事項ほか

木曽三川下流部高潮・洪水災害広域避難計画  
策定に向けたアクションプラン



平成27年10月13日  
木曽三川下流部高潮・洪水災害広域避難検討会

## 従前の枠組みからの方向転換(8市町村へ拡大)

### 【従前の枠組みからの方向転換】

- アクションプランの策定により、取り組むべき内容を検討する段階から取り組みを着実に実施し、広域避難を実現していく段階となった。
- また沿川5市町を対象としてきたが、氾濫区域内にある津島市、蟹江町、飛島村の避難意向や取り組みも反映し、氾濫域全体として円滑かつ確実な避難を実現していく必要がある。
- そのため、今回より、新たな組織の枠組みとして8市町村による広域避難実現に向けた組織「広域避難実現プロジェクト」を立ち上げ、各市町村の取り組みの発信、意見交換を行っていく。

### 木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクトの立ち上げについて

- アクションプランの策定
- 検討会メンバーの拡大  
木曾三川下流部5市町からは氾濫域にある津島市・蟹江町、飛島村を拡大

今後は市町村が主となり、広域避難実現に向けた取り組みの発信、意見交換をしていくことが重要

- 新たな組織の立ち上げ  
8市町村の首長主体の新たな組織を立ち上げ



## 設立趣旨 1/2

大規模水害時における犠牲者をゼロにするため、木曾三川下流部沿川の5市町(桑名市、木曾岬町、弥富市、愛西市、海津市)及び中部地方整備局河川部、木曾川下流河川事務所では、平成25年に「木曾三川下流部 高潮・洪水災害広域避難検討会」を設立し、平成27年には、広域避難実現に向け取り組むべき内容等について、「木曾三川下流部 高潮・洪水災害広域避難計画策定に向けたアクションプラン」(以下「アクションプラン」という。)としてとりまとめたところである。

## 設立趣旨 2/2

アクションプランの策定により、取り組むべき内容を検討する段階から、取り組みを着実に実施し、広域避難を実現していく段階に移行したことから、はん濫域にある3市町村(津島市、蟹江町、飛島村)を新たに加え、8市町村による広域避難実現に向けた組織「木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクト」を設立し、3市町村拡大に伴うアクションプラン等の拡充を図るとともに、各市町村による取り組みの発信や、市町村の枠を越え地域全体で検討すべき内容に関する意見交換を行うことで、地域社会における社会的気運の醸成を図りつつ、適時・的確な広域避難誘導の実現に向けた計画を策定していくものである。